

# 第3回山ノ内町議会報告会結果報告

## テーマ

小学校の統合について

どうする町の活性化

## 開催日

平成22年1月23日(土) ほなみふれあいセンター

平成22年1月28日(木) 渋温泉コミュニティ消防センター

平成22年1月30日(土) よませふれあいセンター

平成22年1月31日(日) 北部公民館

平成22年2月6日(土) 山ノ内町文化センター学習室

## 山ノ内町議会事務局

電話 0269-33-1101 FAX 33-4527 有線 2020

E-mail: gikai@town.yamanouchi.nagano.jp

## 第3回山ノ内町議会報告会実施結果報告書

日 時	平成22年 1月23日(土) 午後 4時00分から午後 6時10分まで
場 所	ほなみふれあいセンター2F (住民参加者数:40人)
地元協力団体	南部協議会、南部公民館 ( 共催・協力・特になし)
議員役割分担	<p>総括責任者:湯本市蔵          司会進行:湯本市蔵          総務常任委員会報告者:高相美智子          社会文教常任委員会報告者:佐藤武士          観光経済常任委員会報告者:児玉信治          広報常任委員会:水島信一          山ノ内町議会活性化研究会:小淵茂昭          記録者:黒岩浩一</p> <p>(出席議員12名)山本(一)、小淵、湯本、高相、渡辺、佐藤、小林、児玉、水島、樋口、徳竹、黒岩</p>
次第(担当者)	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ          主催者:山本一二三議長          共催者:中山南部協議会長</p> <p>3. 出席議員紹介</p> <p>4. 報告事項          (1)議会常任委員会報告              総務常任委員会報告              社会文教常任委員会報告              観光経済常任委員会報告              広報常任委員会報告              山ノ内町議会活性化研究会報告          (2)報告について質疑</p> <p>5. 懇談事項          (1)小学校の統合について          (2)どうする地域活性化          (3)その他、地域の課題等</p>

<p>報告事項の質疑 懇談会意見</p>	<p>質疑応答及び意見交換の主な内容          消防問題、自然災害対策問題など；          ・施設改善、消防署耐震問題、消防団については団員不足、昼間不在団員の増加等の実情から、活動内容を見直してイベント・デモンストレーションよりも実質的活動を。          ・自主防災組織充実し、消防団活動とのコーディネート。          児童減、学校統合問題など；          ・前から判っていたことなのに論議が後手後手ではないか、促進を。          (佐藤議員；地域に温度差あり、町民の声の盛り上がり期待する)          交通弱者の足の問題；          ・中野菅角間線と中野須賀川線の乗り継ぎ等々、バス運行システムもっと工夫を。          議員定数、報酬問題；          ・中野市も2名減、有権者数比など当町定員数は疑問多すぎる。          ・農業専業夫婦二人、土日も働いて年収二人で300万円。議員報酬高すぎる。          ・定数・報酬現行通りと決めたのは、お手盛りでは。          ・議会関係費用総額いくらか、議員はボランティアでやれなど。          (高相、児玉の両議員から説明及び私見表明。)          滞納問題；          ・固定資産税が、収益に関係なく定額なのが基本的な問題。何とかならぬか。          (小林議員；評価見直し等法律の範囲、及び町裁量許される範囲で工夫している。)          ・滞納整理を町がもっと真剣にやる様に、議員から働きかけを。          湯坂の歩道整備促進を。          中野市との合併の再度検討を。          懇談の時間短すぎる。折角の機会だからもっと時間をとれ。          ふるさと創生基金どう使ったか。残いくらか。どう使うか。          (高相議員；楓の湯建設などに使い、残は約5200万円。)</p>
<p>その他反省事項等</p>	<p>当日配布アンケートの集計概況；          回収率 87.5% (40名中35名)</p> <p>(以下は回答者35名に対する%)          議会報告会時期：冬希望 82.8%          曜日；土日 71.4%          時間；午後 51.4%、夜 28.6%          議会だより：いつも読む 54.3%、時々読む 34.3%          インターネット；使う 34.3%、うち議会HP見た 20.0%</p> <p>その他アンケート回答に書かれた主な意見；          (イ) 議員の話がくだい。          (ロ) 質問に対して議員の的確な回答がない。          (ハ) テーマ選定につき、町民の意見を求めよ。          (ニ) 行政と議会は、町の目指す方向性を示せ。          (ホ) 資料は全戸配布せよ。</p>

## 第3回山ノ内町議会報告会実施結果報告書

日 時	平成22年 1月28日(木) 午後 7時00分から午後 9時00分まで
場 所	渋温泉コミュニティ消防センター (住民参加者数: 22人)
地元協力団体	沓野区、沓野組、横湯組、渋湯組、東部公民館 (共催・協力・特になし)
議員役割分担	<p>総括責任者: 小根澤市左衛門          司会進行: 同上          総務常任委員会報告者: 徳竹栄子          社会文教常任委員会報告者: 大碓多賀男          観光経済常任委員会報告者: 黒岩浩一          広報常任委員会: 渡辺正男          山ノ内町議会活性化研究会: 佐藤武士          記録者: 高相美智子</p> <p>(出席議員13名) 山本(一)、大碓、小根澤、小淵、徳竹、黒岩、渡辺、佐藤、小林、児玉、山本(勝)、高田、高相</p>
次第(担当者)	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ          主催者: 山本一二三議長          共催者: 竹節高四郎沓野組惣代</p> <p>3. 出席議員紹介</p> <p>4. 報告事項          (1) 議会常任委員会報告          総務常任委員会報告          社会文教常任委員会報告          観光経済常任委員会報告          広報常任委員会報告          山ノ内町議会活性化研究会報告</p> <p>(2) 報告について質疑</p> <p>5. 懇談事項          (1) 小学校の統合について          (2) どうする沓野区活性化          (3) その他、地域の課題等</p>

<p>報告事項の質疑</p>	<p>Q：空き保育園(和合保育園)の後利用は。  A：公共施設検討委員会での検討結果、更地にして売却することになっている。  Q：和合保育園は、避難所に指定されているが、取り壊すなら避難所はどうなるのか。  A：避難所が必要なら、新たに要望を出していただきたい。  Q：取り壊しはいつか、年次計画は。  A：年次計画は出来ていない。  Q：広報やまのうち等、町の配布物が多く何回も配布する。まとめてほしい。  A：町の配布物は、月に2回になっているが、お聞きし伝えておく。  Q：報告では、防災のことにに関して何も言っていない。全国で異常気象による大きな災害が起き、国も県も必死で防災に取り組んでいるのに、防災に関して発言が無いのはいささかと思う。日本有数の地すべり地帯、暴れ川の角間川と何が起こるか分からない。  観光の花火や森林セラピーもいいが、どうしたら守れるか、もっと危機感を感じてほしい。マップを作ってほしい。  A：実施計画にマップの作成費が盛り込まれている。  Q：議員定数について現状維持と決まったが、再度検討すると言ったがどうか。  A：みなさんの意見を聞いて再度決めていきたい。  Q：報酬は審議会にかけているそうだが、定数はかけないのか。  A：定数はかけない。上限が撤廃し住民と検討しながら決めていこうとなった。自分達もそうしていきたい。  A：中野市は26人から20人になったが、報酬は30万円。仕事は変わらない。  A：議員定数の推移は、昭和58年が22人。昭和62年から20人。平成15年18人。平成19年から16人になった。  Q：地獄谷に外国人が多くなってきた。吹雪の中、バス停で待っている外国人を見る。何とかできないのか。  会場より声あり：上林旅館組合で、上林と国道の2箇所のバス停に待合所を作った。  Q：星川のバス停では、こども達が寒そうだ。  会場より声あり：小屋があるが、こども達が入らないだけ。</p>
<p>懇談会意見</p>	<p>(1) 小学校の統合について  最初に議員より説明あり：地区によって、温度差がある。資料説明のあと、町に対してそろそろ準備してもらった方がいいと声をあげてほしい。  Q：四小学校の耐震対策はどうなっているか。  A：全部済んでいる。</p> <p>(2) どうする沓野区活性化  Q：地区で作った活性化計画はどうなっているか。  A：沓野、渋、佐野、宇木、菅で作成。  A：佐野区は、計画をもとに積極的に活動している。観光歴史マップ、案内板、佐久間象山の幟などを作成し、現在も非常に活発に活動している。  Q：それぞれの地区で進めていけるよう指導してほしい。  A：地区の熱意が必要。  Q：第5次総合計画はどうなっているか。  A：委員会構成ができて実施計画を先にやっていたので、総合計画について</p>

	<p>は、まだ1回も開いてない。要望についてあげていただきたい。</p> <p>Q：消防委員会の構成は。</p> <p>A：昨年4月に1回しか開いていない。構成は、町長、議員(高田)、区長 会から3名、消防団の正副団長、消防課長、町長推薦の女性が2名。</p> <p>Q：活動内容は。</p> <p>A：消防団の議論はしていない。自主防災組織のヘルメットへの助成の話 はそこで出た。渋の消防団の実情が関係者から話があったがそこで終わ っている。2月にもう1回開く。個人的には毎月開いていかないと解決 に向かわないと思う。</p> <p>Q：消防団改革に、団の見直しの要望を出していきたい。どこにだしてい ければいいか。</p> <p>A：担当は、消防課である。2月9日に消防団と総務常任委員会との懇談 会がある。そこで消防団の実情を聞いていく。</p> <p>Q：活性化について何度も聞いてきたが具体的な物が今まで感じられない。 志賀山文庫の無償譲渡もいらない、吹雪に外国人をバス停で待たせてい ることなど、町はどう考えているのか。スノーモンキーのお客さんを もっと利用すべきだ。志賀山文庫に観光商工課を持ってきたらどうか。</p> <p>Q：行政は地元負担を掛けすぎる。すぐ地元でやれと言う。地獄谷の看 板も地元でやった。</p> <p>Q：除雪は地獄谷でやっている。行政が何とかすべき。</p> <p>Q：野猿公苑は宝である。</p> <p>Q：(議員から)山ノ内町は、観光の町であることの町民意識の高揚を図 るために、荒井河原の源泉を地元の人に見せて欲しい。</p> <p>A：(渋・横湯惣代から)観光にする動きがあったが、渋温泉の生命線 である源泉を守るために、今まで通り守っていくことになった。</p> <p>A：町民に観光の意識教育をしていかななくてはいけない。</p> <p>Q：第5次総合計画、来年度の予算の重点は。</p> <p>A：3月議会に上程されるのでこれからである。</p> <p>Q：これからどうすればいいか議員の声が聞こえない。</p> <p>A：それぞれの議員は意見を持っているが、今日は皆さんの意見を聞いて、 議員全員がどうしていくか考えていく。</p> <p>Q：人が来たくなる政策を。</p> <p>Q：道の駅の側面を使って、もっと農家の人販売できるように。道の駅 は、今一番儲かるところ。もっと活用を。</p> <p>A：法的な問題で側面の活用は難しい。活性化は、誰のせいにするのでは なく、みんなと一緒にやっていく。こういう場で皆さんの意見を聞いて 一緒にやっていきたい。</p> <p>Q：上林のテニスコートは、老朽化して傷んで汚い。職員に言ったら議員 に言ってくれと言われた。使用料を貯めて修理に回したらどうか</p> <p>A：度々修理しているので、修理をしなくて済むように工事をするこ とになっている。</p> <p>Q：道の駅に温泉を引いたらどうか。</p> <p>A：聞いておく。</p> <p>A：検討する。</p> <p>Q：お客さんがいる道の駅に観光商工課を持っていったらどうか。</p> <p>A：検討していく。</p>
<p>その他反省事 項等</p>	

## 山ノ内町議会報告会実施結果報告書

日 時	平成 22年 1月30日(土) 午後 7 時 00分 から 午後 9 時 15分まで
場 所	よませふれあいセンター (住民参加者数 53人) 議員10、事務局1
協力団体	西部協議会、西部区長会 ( 共催・協力・特になし )
議員役割分担	総括責任者 渡辺 正男 司会進行 渡辺 正男 総務常任委員会報告者：高田佳久 社会文教常任委員会報告者：小林克彦 観光経済常任委員会報告者：樋口利一 広報常任委員会報告者：黒岩浩一 山ノ内町議会活性化研究会報告者：小淵茂昭 記録者：小淵茂昭 出席議員：児玉議員、佐藤議員、大裕副議長、山本議長
次第(担当者)	1. 開 会  2. あいさつ 主催者：山本一二三議長 共催者：西部協議会長  3. 出席議員紹介  4. 報告事項 (1) 議会常任委員会報告 総務常任委員会報告 社会文教常任委員会報告 観光経済常任委員会報告 広報常任委員会報告 山ノ内町議会活性化研究会報告  (2) 報告についての質疑  5. 懇談事項 (1) 小学校の統合について (2) どうする地域活性化 (3) その他、地域の課題等

<p>主な質疑内容</p> <p>意見・提言</p>	<p>&lt;委員会への質問&gt;</p> <p>良い会議には参加者が少ない。参加者の教育をして欲しい。 （土砂災害防止講習会、教育懇談会等） 荒廃農地対策に町の指針がない。お金ないのにどうしてできるか。</p> <p>前沢指導員の活動は何か。</p> <p>小学校通学路の冬期間の歩道除雪は不十分だ。</p> <p>&lt;テーマへの質問&gt;</p> <p>小学校問題はH16年の自立のためのマスタープランに提示されている。もっと早く議論するべきだ。 少人数と大人数では、教育状態が違ってくる。教育委員のときから話が出ていた。北小と西小が合併すべきだ。 山中で東西南北一緒になるので、小さい時から大きな所で育てるべきで、いろいろな環境で育てる必要性があり、経済性も考えるべきである。</p> <p>子どもが減るのは世帯数も減るので人口対策も考えるべきだ。 少人数教育もあり得る。 北部の子どもさんは送迎対応(高校生)されているが、保護者は大変だ。 東・南小の実情はどうなっているのか。 町名変更はどうなっているのか。</p> <p>美化運動、町をきれいにする宣言の町で、ゴミが増えている（本郷～夜間瀬橋） 人権問題、社会福祉大会、平和宣言は良いことだ。</p> <p>本郷は町のゴミを押し付けられている。区役員が大変である。</p> <p>メインテーマとサブテーマを変えて提案すべきだ。</p> <p>小学校の芝植えを進めるべきだ。</p> <p>小学校を維持する方法の考え方は。</p> <p>農業を進め、Iターン等の策を講じ、積極的に進めるべきだ。</p> <p>山本議員（農業委員）が農業地への出席しないのは残念だ。</p> <p>グリーンツーリズムの活動が機能していない。</p> <p>大人数の中学校で自分自身が成長できた。</p>
<p>その他反省事項等</p>	

## 第3回山ノ内町議会報告会実施結果報告書

日 時	平成22年 1月31日(日) 午後 7時00分から午後 9時00分まで
場 所	北部公民館 (住民参加者数: 28人)
地元協力団体	須賀川区、 ( 共催・協力・特になし )
議員役割分担	<p>総括責任者: 徳竹栄子          司会進行: 小林克彦          総務常任委員会報告者: 小根澤市左衛門          社会文教常任委員会報告者: 水島信一          観光経済常任委員会報告者: 湯本市蔵          広報常任委員会: 黒岩浩一          山ノ内町議会活性化研究会: 小淵茂昭          記録者: 徳竹栄子</p> <p>(出席議員14名) 山本(一)、大裕、小根澤、小淵、湯本、黒岩、渡辺、佐藤、小林、児玉、山本(勝)、水島、樋口、徳竹</p>
次第(担当者)	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ          主催者: 山本一二三議長          共催者: 小林正人区長</p> <p>3. 出席議員紹介</p> <p>4. 報告事項          (1) 議会常任委員会報告          総務常任委員会報告          社会文教常任委員会報告          観光経済常任委員会報告          広報常任委員会報告          山ノ内町議会活性化研究会報告</p> <p>(2) 報告について質疑</p> <p>5. 懇談事項          (1) 小学校の統合について          (2) どうする須賀川区活性化          (3) その他、地域の課題等</p>

<p>報告事項の質疑 懇談会意見</p>	<p>Q：児童減少の中、子どもたちの役割の負担がとて多すぎる。大変となり頭痛する子が増えているストレスとして出てきている。教師を毎年、陳情するのは大変である。また4小学校に不公平があってはいけない。他の地域の声を聞かせて欲しい。</p> <p>A：東部地区は意見でず話題としていない。</p> <p>A：町の出生率の実情を各地域の皆さんに知らせて知ってもらいたい。</p> <p>A：町が方向性を示さなければ検討ができないのではないかという声が西部地区から意見がでました。</p> <p>A：南部地区では話題に出ていない。山ノ内町全体の問題である。</p> <p>Q：小学校の統合は財政的な観点で現実には考えていることが多い。統合を進めてよいのか、人口が須賀川に入ってくる施策をしてもらいたい。</p> <p>Q：アンケート調査の根拠がよくわからない。メリット、デメリットの意見は誰が決めるのか。小学校の役割をもっと考えて学校の必要性をよく考えて検討していただきたい。</p> <p>Q：地域の活性かもなくなってしまう。また、歴史・文化もなくなってしまう悲しい。陳情もしなければ教師の確保もできないことも悲しい。</p> <p>Q：北小存続は賛成。子どもたちが増える施策を。案として教員住宅を子どもがいる家庭に無料で貸す。空き家を安く提供する等考えてもらいたい。</p> <p>Q：保育園、小学校の保護者の意見は、北小が大好きである。</p> <p>Q：小学校は歩いて行くもの。保護者の方々は半々の意見である。子どもたちが少ないからダメであるということだけでは決め付けられない。小さな学校の良さがある。</p> <p>ぎりぎりまでは、このままでよい。4小一校でなければ納得できない。</p> <p>A：統合ありきではない。</p> <p>A：山ノ内全体として、みんなで考えていく。</p> <p>Q：人口減が全ての原因である。町営住宅を北部に建ててほしい。教育長が来て頂けなくて残念である。地域活性化の一つとして、遊休農地対策でトラクターが欲しい。</p> <p>Q：先日農業委員が中心となり、北部地区農業経営ビジョン検討会が開催されたが、今後良い方向に行くことを願う。</p> <p>Q：JA撤退、学校がなくなるのではないかという中で、地域活性化について考えられない。須賀川はなりたたないようになるのではないか。統合は須賀川だけの問題ではなく、東西南部の皆さんも同じようになるのだから、皆で考えてほしい。</p>
<p>その他反省事項等</p>	

## 第3回山ノ内町議会報告会実施結果報告書

日 時	平成22年2月6日(土) 午後2時00分から午後4時00分まで
場 所	山ノ内町文化センター 学習室 (住民参加者数23人)
地元協力団体	(共催・協力)湯田中区・上条区
議員役割分担	<p>総括責任者 佐藤武士          司会進行 水島信一          総務常任委員会報告者:高田佳久          社会文教常任委員会報告者:渡辺正男          観光経済常任委員会報告者:山本 勝          広報常任委員会報告者:黒岩浩一          山ノ内町議会活性化研究会報告者:佐藤武士          記録者 高田佳久          (出席議員)小淵議員、児玉議員、小林議員、山本議長          (事務局)1名</p>
次第(担当者)	<p>1.開 会</p> <p>2.あいさつ          主催者:山本議長          共催者:湯田中区長</p> <p>3.出席議員紹介</p> <p>4.報告事項          (1)常任委員会報告          総務常任委員会報告          社会文教常任委員会報告          観光経済常任委員会報告          広報常任委員会報告          山ノ内町議会活性化研究会報告</p> <p>(2)報告についての質疑</p> <p>5.懇談事項          (1)小学校の統合について          (2)どうする地域の活性化          (3)その他、地域の課題等</p>

<p>主な質疑・意見 提言内容</p>	<p>平成20年度決算審査意見(監査意見)の中で、「不用額が算定されるが予算の効率的な運用を求められる」とあるが、不用額とはどのようなもので、また議会はチェックできているのか。</p> <p>答弁：予算で計上したが実際には用いなかった(余った)金額で、翌年に繰り越しとなる。補正予算がしっかり計上されていないと思うので、議会としても意見をつけてある。</p> <p>議員定数の件で、住民アンケートを重視した意見が多かったが、はたして2年前のアンケートが民意になっているのか、もう一度アンケートをとってみてはどうか。また町民の代表であって地域の代表ではないので人数は減らしてもよいと考えるが。</p> <p>答弁：議会活性化研究会で意見がまとまらなかったのが最後は多数決としたが、議会報告会において皆さんの意見を聞いて個々の議員が考えを変更するかもしれません。検討します。</p> <p>議員報酬はチェック機能・政策立案能力が高ければ報酬を上げてても良いと考える。</p> <p>議会だよりでは議員期末手当については二転三転したとの旨が書かれているが、中野市よりも山ノ内町のカット率が低いのはなぜか。</p> <p>答弁：中野市は議員報酬のカットは実施していない、近隣の市町村との差が出ないようにも検討した。本来町は国基準で全て行ってきた。中野市と比較するのはいかがかと思う。</p> <p>住民も議会だよりをしっかりと見ているので不信と取られないように活動して欲しい。</p> <p>答弁：議会だよりを読んでいただいております、結果だけでなく過程をしっかりと載せられるようにしていきたい。</p> <p>議員定数についてアンケートを取ってもまとまらないと思う、住民の皆さんの意見もさまざま考えます。混乱の無いように定数を条例で定めて下さい。</p> <p>議員の人数については、地域にや住民にとって必要ならば20人でもいてもいいが、役に立たないのなら一人もいない。</p> <p>合併の時の話では、合併した場合は議員は5～7人でとの考えの議員がいたが、なぜ今は16人の人数が必要なのか。</p> <p>議員の年俸は。</p> <p>答弁：約290～300万円です。</p> <p>議員定数については全国的に減らす傾向になっているが、類似自治体で県内(波田町・御代田町・坂城町)は12～14名である。友好姉妹都市である玉村町は人口37,000人で16名、中野市でも20</p>
-------------------------	---

	<p>人での選挙を4月に実施したが、人口比では山ノ内町は6人となるが、山ノ内町も若干名は減らした方が良いのではないかと。</p> <p>一般質問について、この3年間では平均11名程度となっている。3～5名程度の議員は一般質問を行っていないが、議員の権利を放棄しているのはおかしい。質を上げる勉強をしっかりともらいたい。</p> <p>小学校の統合については東部ではあまり関心の無い事項と受け止めるが、町の考え方はどうなのか。</p> <p>答弁：町側は各地区で温度差があるので議論できないとしている。第5次総合計画の中に「この問題を考える」との一文を入れる程度と考える。</p> <p>小学校の統合については地域の中で一本化していないとまとまらないと思う。</p> <p>統合した場合に空いた学校の活用方法は考えているのか。</p> <p>時間のかかる問題と考えるが、小中一貫校として議員提案してはどうか、足立区では平成18年度に実施しているが。</p> <p>観光おもてなし宣言で道の駅での全職員の研修は、観光地湯田中の人に聞いてみると、必要無いとの意見が多い。おもてなしの心とは「人を思いやる心」であるので行政に生かして欲しい。山ノ内町（行政）がおもてなすのは町民である、窓口対応で町民におもてなしができるようにしてもらいたい。</p>
<p>その他反省事項等</p>	